

＜第5回 竜神地域会議 会議録＞

日 時 令和6年8月27日（火） 18:00～19:30
場 所 竜神交流館 多目的ホール
出席者 委 員 16名
事務局 吉澤支所長、松原副主幹、山口書記
オブザーバー 杉本市議、長谷川交流館長

1 会長あいさつ（会長欠席のため省略）

2 報告事項

- （1）第4回竜神地域会議会議録について
 - ・内容の確認
- （2）防災チラシの回覧について
 - ・事務局より説明
- （3）防災体験バスツアーの開催報告について
 - ・事務局より説明
- （4）竜神ふれあいまつりへの出展について
 - ・11月3日（日）竜神ふれあいまつりへ出展予定の交通安全啓発ブースの内容について事務局より説明
- （5）豊田都市交通研究所による研究内容についての説明
 - ・豊田都市交通研究所 大澤脩司主任研究員より
 - ① スマホアプリ内バナー広告を活用した交通安全啓発について
 - ② 移動式赤色回転灯を活用した危険箇所での交通安全啓発について
 - 研究内容や効果検証方法についてスライドを用いて説明

＜委員より質問＞

道路上に三脚で設置するような場所があるのか。三脚の脚が邪魔になってしまうのではないか。

＜事務局より回答＞

今回候補に挙がっている場所はすべて角の私有地に設置できそうな場所があったため、道路上ではない。土地の所有者の許可はいるが、三脚の脚が邪魔にならないように設置できそうな空間はある。

＜委員より質問＞

ヒヤリハットの危険度はどのような基準や方法で策定されているのか。

＜大澤主任研究員より回答＞

表の中にヒヤリハットの内訳が書いてあるが、その区分ごとに実際の交通事故の発生条件を参照し、どのような形態の事故だと死亡事故につながりやすいのかを事故の発生形態別に整理している。その結果を参照しながら指摘があったヒヤリハットの危険度を個別に計算している。同じような場所で何件も指摘がある場合は、それぞれの危険度を足して、エリア全体としてヒヤリハットの危険度がどれぐらいかを計算している。内部的にそのようなことを計算して、表右端の数値を出している。ヒヤリハットマップの詳細に関しては資料の後半にまとめてあるので、そちらも参考にしてほしい。

＜委員より質問＞

赤色回転灯の設置はスピードの抑制をするために取り付けるということで良いか。ハードの対策なので信号や標識と変わらないと思うが、危険な運転をする人には物の対策よりも、どのように意識を変えていくかを考えることが重要だと思うがどうか。

＜大澤主任研究員より回答＞

主には回転灯を見たことでスピードを落としたり、危険箇所の意識を高めていくことを目指している。ご意見のとおり、意識を変えていくことは重要だと考えている。今回は赤色回転灯を設置し効果をはかってみて、その結果を踏まえ、この先の事業展開等を考える一つの検討材料としていきたいと考えている。

＜委員より質問＞

緑ヶ丘で候補に挙がっている箇所は、2年ほど前まで点滅信号があったが撤去された。注意喚起は以前からされている場所なので、撤去された理由などを区長等に確認した方が良いのではないかと。

＜事務局より回答＞

なぜ撤去されたのかは区長に確認してみる。

3 協議事項

令和7年度に実施する交通安全事業について、3つのグループに分かれて協議
令和7年度に実施する交通安全事業について、テーマ（ターゲット）を誰に絞るべきかを協議

＜委員より質問＞

各グループで意見が分かれた場合はどのようにテーマを決定するのか。

＜事務局より回答＞

3グループあるので、2グループが同じ意見であればそのテーマに決定する。3グループとも別の意見の場合は、一番良いと思うテーマをそれぞれ紙に記入して投票してもらい、一番多いテーマに決める。

・3グループに分かれてグループワーク（20分間）、発表

＜Aグループ＞

決定したテーマ：65歳以上の高齢者

理由：昼間の時間帯の単路での事故が多く、事故当事者に高齢者が多いため。

＜Bグループ＞

決定したテーマ：ドライバー

理由：車両同士の事故が多いため。地域内のドライバーか地域外のドライバーか絞るべ

きかという議論もあったが、見分けがつかないため、すべてのドライバーとした。
<Cグループ>
決定したテーマ：ドライバー
理由：交通弱者に対して対策を行うべきという意見もあったが、ドライバー全般の意識を変えれば事故が少なくなるのではないかという結論になったため。
・令和7年度の事業はBグループとCグループの2グループで挙げたドライバーをターゲットとした事業を展開していくことに決定

★次回開催

9月24日(火) 午後6時00分～